

# あいち農産物生産流通レポート

2025年9月号

	ページ
◎ マンスリーレポート	
・ 高品質なナスをいっぱい穫ろう —ナス新品種「試交17-22」の栽培技術を確立—	(農業総合試験場) 1
◎ 地域トピックス	
・ 県内トップを切って新米出荷！あいち米初出荷式が開催されました！	(海部農林水産事務所) 2
・ こども農学校 20周年を迎えて～愛知東農業協同組合～	(新城設楽農林水産事務所) 3
◎ 東京レポート	
・ 国産農林水産物・食品の販路拡大を支援する展示会が開催	(東京事務所) 4
◎ 東京都中央卸売市場における9月の主要な愛知産青果物の動向	(東京事務所) 5
◎ 花 き	
・ 切花・鉢花の9月の見通し(県内市場)	(食育消費流通課) 7

## 内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

## 高品質なナスをいっぱい穫ろう

### —ナス新品種「試交 17-22」の栽培技術を確立—

農業総合試験場

愛知県農業総合試験場(以下「農総試」)が育成したナス新品種「試交 17-22」(2021. 11. 29 登録出願)は、単為結果性及びとげなし性を持ち、多収性であり漬物に適していることが特徴です。2023 年からは県内産地で本格的に栽培が開始され、生産者から品質の良さが評価されています。しかし、この品種は、従来から栽培されている品種「千両」と同様の栽培管理方法では、暖候期(3 月以降)に光沢のない果実「つやなし果」が発生したり、厳寒期(12 月以降)は収量が減少することが課題となっています。このため、農総試では、新品種に適した栽培技術の確立に取り組みました。

#### 1 つやなし果発生対策

つやなし果の発生は、1 芽切り戻しによるこまめな剪定(図 1)の徹底で 77%減少させることができ、少量ずつ多頻度かん水することで、55%減らすことができます(図 2)。

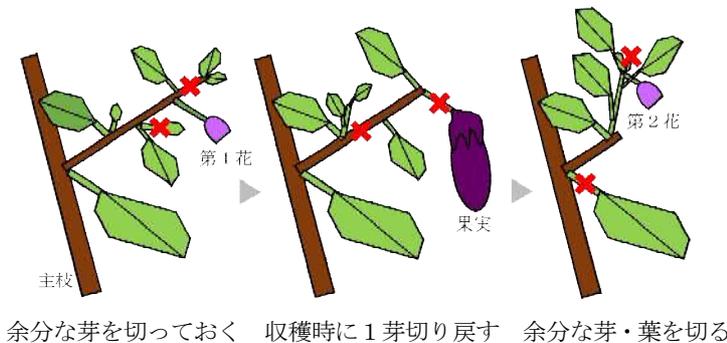


図 1 1芽切り戻し剪定

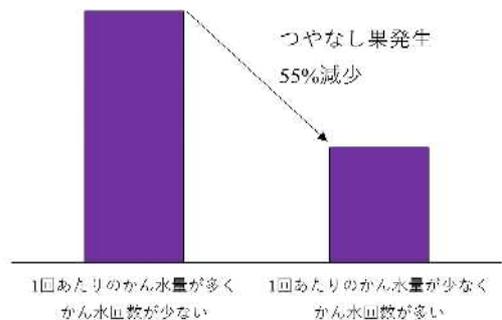


図 2 1株当たりのつやなし果発生数の比較

#### 2 厳寒期の収量減少対策

厳寒期の収量は、側枝基部の摘葉のタイミングを第2花が開花した後まで遅らせること(図 3)で増加します(図 4)。

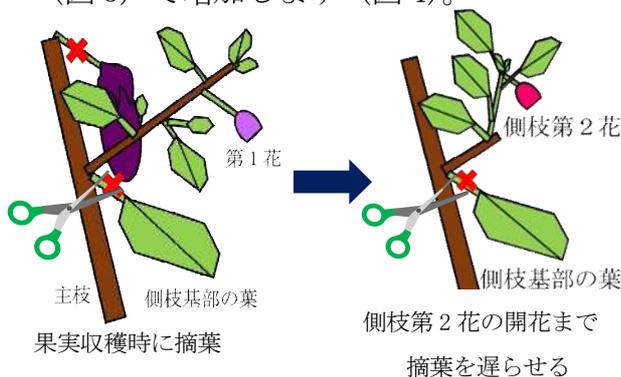


図 3 摘葉のタイミング

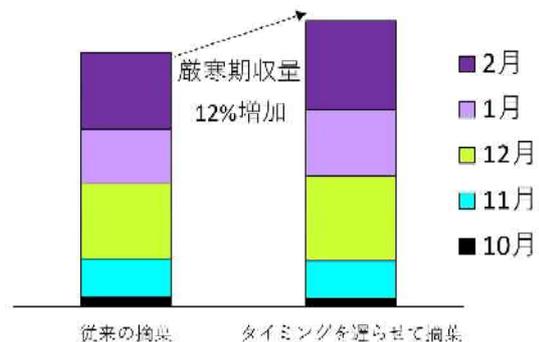


図 4 1株当たりの収量の比較

#### 3 「試交 17-22」の栽培指針

これらの管理方法は、『促成栽培向け 単為結果性とげなしナス「試交 17-22」の栽培指針』としてとりまとめ、農総試の Web ページで紹介しています。二次元コードよりダウンロードできますので、是非ご活用ください。



促成栽培向けナス新品種  
「試交 17-22」の栽培指針

## 県内トップを切って新米出荷！ あいち米初出荷式が開催されました！

海部農林水産事務所

愛知県では、8月上旬から10月にかけて「あいちの新米」の収穫が続きます。

早場米の産地である弥富市鍋田地区では、2025年8月10日（日）に県内のトップを切って今年の新米が出荷されました。

### 1 今年のおあいち米初出荷式について

JA あいち海部鍋田集出荷場で、JA あいち海部と JA あいち経済連の主催により、あいち米の初出荷式が開催されました。初出荷式には、弥富市長を始めとする管内の関係者のほか、農業水産局長、海部農林水産事務所長などの県関係者も臨席しました。

一日検査員を委嘱された JA あいち海部マスコットキャラクターの「あまにゃん」による出荷米の検査、出席者によるテープカットなどのセレモニーが行われた後、「あきたこまち」6,622袋（1袋30kg）を積んだトラックが集出荷場から出発しました。出荷された米はすべて1等米で、8月12日以降、県内のスーパーなどで販売されました。



「あきたこまち」を積んだトラックの出発

### 2 今年のお作柄について

JA あいち海部の鍋田地区は、水稻生産出荷農家が106名、作付面積602haのうち「あきたこまち」と「コシヒカリ」が8割近くを占める早場米の産地で、「あきたこまち」を皮切りに収穫が始まっています。本年産の「あきたこまち」は、高温やイネカメムシの発生など栽培管理条件が厳しい中ではありましたが、生産者の適切な管理により、順調に生育が進み、作柄は平年並で、品質は良好です。



農産物検査の結果を発表する「あまにゃん」と補佐する「あぐり父さん※」



今年収穫された「あきたこまち」

※「あぐり父さん」はJAあいち経済連のおあいち米キャラクター

# こども農学校 20周年を迎えて

## ～愛知東農業協同組合～

新城設楽農林水産事務所

愛知東農業協同組合（以下、J A 愛知東）は、食農教育として、次代を担う子どもたちとともに、ふるさと奥三河の自然に触れながら農業の大切さ、食べ物の大切さを学ぶ事を目的に、2005 年度から小学3年生～6年生を対象とし、「こども農学校」を開校しています。

昨年、開校20周年を迎えたこの取組を紹介します。

### 1 卒業生は20年間で延べ1,300名

J A 愛知東管内の小学校は、4市町村で19校ありますが、こども農学校の定員は60名/年です。児童の募集は、地域の学校教育との連携を重視し小学校長会への説明から始まります。

2005年度から2024年度までの間、延べ1,316名の児童が「こども農学校」を卒業しました。中には4年間継続して参加した児童も70名ほどいました。

### 2 J A 愛知東の食農教育として位置づけ

「こども農学校」は、J A 愛知東の職員約20名が運営し、採用2年目の職員が担任、地元の農業関係高校である県立有教館高等学校の生徒が副担任となり、地域の農業の輪が広がるよう工夫がなされています。

また、こども農学校の運営・児童への指導・保護者との調整・地域協力者との連携調整など責任を持って執り行うことで、採用間もない職員の資質向上を図っており、J A 愛知東の職員教育の一環にもなっています。

### 3 今後の取組と組合員との関係性

2025年度「こども農学校」は管内11小学校から57名の児童が参加しています。

年間8回の授業では、米や野菜の栽培、地元食材を使った調理、J A 愛知東産地直売所での販売体験を実施します。

授業の運営には、10名ほどの保護者に応援をお願いしており、親子で参加することで、子どもたちに加え、保護者の「食への関心」を高めることにもつながっています。

J A 愛知東 2025「こども農学校」カリキュラム		
回	月日	主な内容
第1回	4月20日	開校式、八名丸里芋など植え付け
第2回	5月10日	四谷千枚田の田植え
第3回	6月7日	こども農学校の森の植樹、千枚田観察
第4回	8月2日	J A 本店での夏祭り
第5回	9月27日	千枚田の稲刈り、ハザ掛け、おにぎり作り
第6回	10月11日	野菜収穫、千枚田での脱穀体験、弁当作り
第7回	11月8日	野菜・米の販売体験、千枚田のおにぎり
第8回	12月13日	修了式、1年間のふり返し、しめ縄作り



田植え体験（四谷千枚田）



修了式（J A 愛知東組合長より）

## 国産農林水産物・食品の販路拡大を支援する展示会が開催

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2025年8月20日(水)及び21日(木)に東京ビッグサイトで「第18回アグリフードEXPO 東京」(主催:日本政策金融公庫)が開催されましたので、その概要を紹介します。

### 1 地域性豊かな展示、本県からは4社が出展

本展示会は「農と食をつなぐ」をテーマとして、地域性豊かな国産農林水産物・食品の国内外への販路拡大を支援するために開催されました。来場者数は、2日間で計12,833名でした(主催者発表)。

47都道府県から527の企業・団体が出展し、輸出実績や輸出に意欲のある出展者のブースには輸出口ゴマークが掲示されていました。本県からは4社の出展があり、うち3社が自社商品の輸出に取り組んでいました。いずれも主な輸出先はアメリカやヨーロッパで、国内販売が主体のため、輸出割合は売上全体の1割に満たないとのことでしたが、輸出拡大に意欲的でした。



輸出口ゴマーク (主催者資料より転載)



本県からの出展者の商品展示例

### 2 多様な企画構成で国内外への販路拡大を支援

会場内には展示エリアのほかに、特設スペース(国産原材料の利用促進に関するセミナー、出展者の商品を組み合わせた料理の試食試飲イベント)、相談コーナー(専門家が課題解決を支援)、バイヤーマッチングコーナー(国内外のバイヤー35社が来場)、JETRO 商談コーナー(海外バイヤー15か国16社が来場)が設けられていました。相談コーナーでは、農林水産物・食品輸出プロジェクト(GFP)事務局、農林水産物・食品輸出支援プラットフォーム、全国植物検疫協会などの専門家が様々なアドバイスや支援メニューの紹介を行っていました。GFP事務局の担当者によると、初日の実績は30件程度で、出展者だけでなく来場者からの相談もあったとのことでした。



相談コーナーの様子

2024年は、訪日外国人旅行消費額は8.1兆円に達し<sup>※1</sup>、農林水産物・食品の輸出額は1.5兆円を超え<sup>※2</sup>、いずれも過去最高となりました。このような状況の中、本県産の農林水産物や食品の需要も本展示会のような機会を通じて国内外で拡大することが期待されます。

※1 国土交通省観光庁発表(2025年3月)、※2 農林水産省発表(2025年2月)

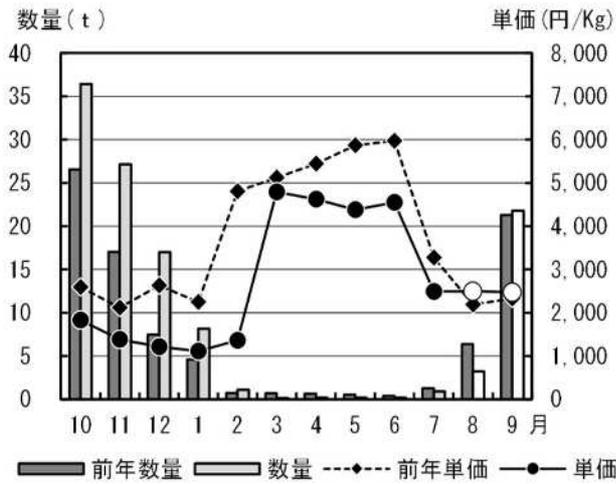
# 東京都中央卸売市場における9月の主要な愛知産青果物の動向

## 1 9月の見通し

品目名 ぎんなん

実績等	区分	入荷量 (t)	卸売価格 (円/kg)	前年上位3産地(%)		市場からの提言等
実績	2020年	30	1,894	愛知	64%	愛知産は出荷時に十分な選別が行われ、大粒で実がしっかりと詰まっているため、他の競合産地よりも品質が高く、市場での評価は高い。生産者の高齢化は心配材料であるが、産地では行政も生産振興に積極的であると聞いており、現在の生産量を維持できるようにお願いしたい。
	2021年	32	1,237	静岡	10%	
	2022年	37	2,198	茨城	8%	
	2023年	30	3,149			
	2024年	33	2,446			
	5カ年平均	32	2,185			
	2025年見通し	34	2,600			

愛知産の動き

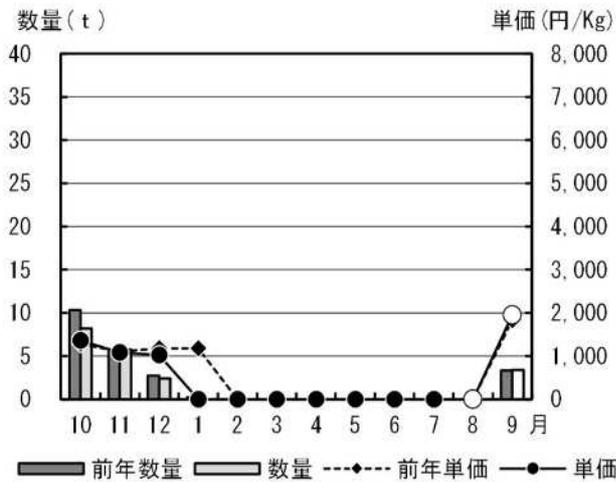


産地概況

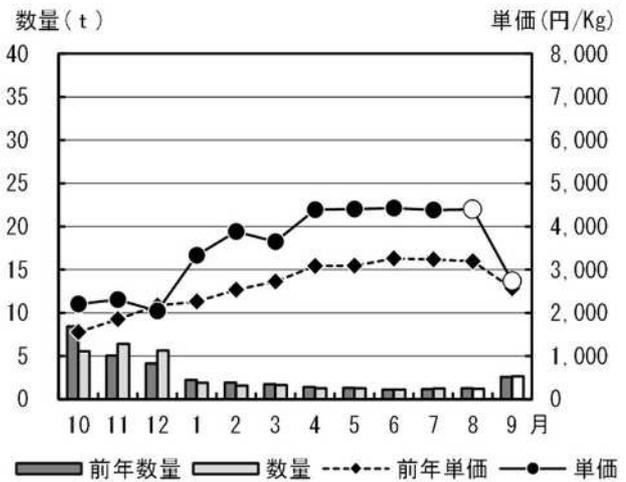
主要産地では高温や少雨が続けているが、9月の入荷量は、本県は前年をわずかに上回る見込み。競合産地の静岡、茨城もわずかに上回ると見込まれる。静岡の入荷開始は9月上旬の予定である。

9月に入荷される品種は、本県、静岡、茨城のいずれも早出しの「久寿」となる。本県は前年同様に着果量が多く、やや小玉傾向で、L～2Lサイズが中心となる見込み。静岡、茨城も着果量が多いが小玉傾向となっている。

競合産地の動き (静岡)



競合産地の動き (茨城)



## 2 入荷量・価格の動き

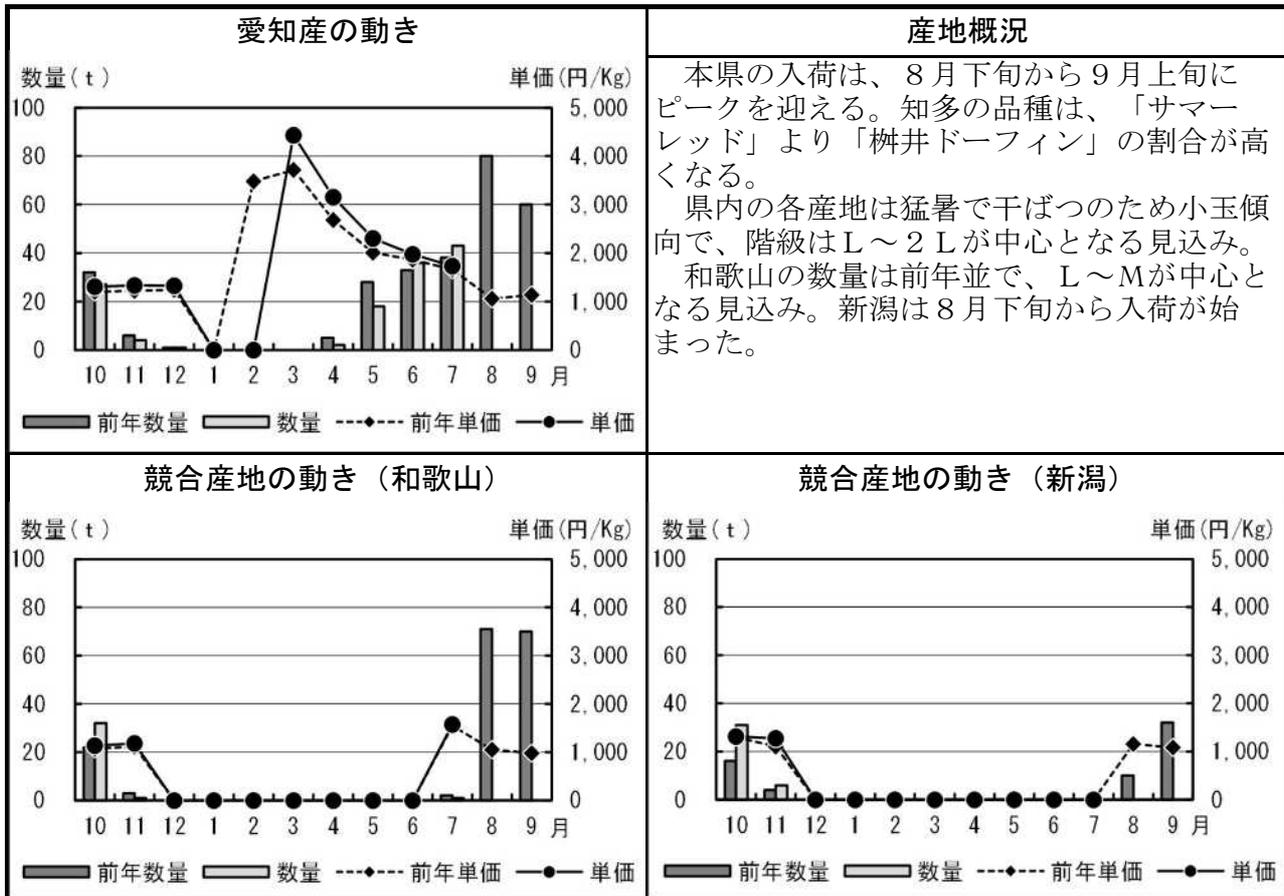
品目名 いちじく

前年上位3産地(%)

和歌山 31%

愛知 26%

新潟 14%



# 切花・鉢花の9月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 9月3日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2020年	1,698	60	
		2021年	1,468	63	
		2022年	1,470	63	
		2023年	1,703	63	
		2024年	1,536	68	
	5ヵ年平均	1,575	64		
	2025年見通し	1,600	65		
	概要	愛知、長野中心に入荷。夏場の高温により生育が遅れ気味。彼岸需要により中旬頃から入荷が伸び、彼岸明けまで残る見込み。			
小 ぎ	実績	2020年	1,595	40	
		2021年	1,333	41	
		2022年	1,503	38	
		2023年	1,383	34	
		2024年	839	60	
	5ヵ年平均	1,331	41		
	2025年見通し	1,000	50		
	概要	愛知、長野、埼玉、岩手から入荷。暑さの影響もあり、生育が遅れ気味。中旬から入荷が伸びて、後半まで続きそうである。			
カー ネー シ ョ ン	実績	2020年	1,129	42	
		2021年	1,088	47	
		2022年	1,158	50	
		2023年	1,022	61	
		2024年	1,172	52	
	5ヵ年平均	1,114	50		
	2025年見通し	1,100	50		
	概要	長野中心の入荷。酷暑の影響もあり、前進かつ丈の短い物が多く見受けられる。輸入品は例年並みに彼岸にむけての入荷となる。			
か す み	実績	2020年	108	116	
		2021年	106	150	
		2022年	106	140	
		2023年	141	123	
		2024年	177	108	
	5ヵ年平均	128	125		
	2025年見通し	150	110		
	概要	福島、長野からの入荷となる。8月の高温の影響で前進気味。また、L級の出荷が多くなりそう。中下旬は入荷減少に伴い、単価が上がってくる見込み。			

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	2020年	305	162	
		2021年	268	188	
		2022年	278	191	
		2023年	257	212	
		2024年	234	205	
	5カ年平均		268	190	
	2025年見通し		230	200	
概要	<p>オリエンタルユリは新潟、北海道、埼玉、岐阜からの入荷となる。8月下旬は出荷は少なめであったが、9月は前年並みの入荷となる見込み。LAユリは新潟、埼玉からの入荷となり、入荷量は前年並みの見込み。鉄砲ユリは兵庫、愛媛からの入荷となり、台風の被害も無く、安定した出荷が見込まれる。</p>				
洋 ら ん	実績	2020年	316	91	
		2021年	295	104	
		2022年	299	134	
		2023年	340	118	
		2024年	346	111	
	5カ年平均		319	111	
	2025年見通し		320	111	
概要	<p>愛知、鹿児島、静岡などの国産に加え、輸入品が入荷する。コショウランは輸入中心に微増。カトリアは入荷が増える見込みは薄く、暑さの影響で輸付が悪いため、出荷量は更なる減少予想。デンファレは徐々に増える見込みでアンナも増加予定。オンシジウムは上位等級が徐々に減少し、下位等級が増える見込み。シンピジウムはニュージーランド産が主体なため、価格次第の展開。</p>				
ば ら	実績	2020年	628	76	
		2021年	664	69	
		2022年	747	74	
		2023年	705	81	
		2024年	700	74	
	5カ年平均		689	75	
	2025年見通し		700	70	
概要	<p>愛知、岐阜、三重、山形中心の入荷。暑さの影響から短い物が目立ち、その影響は例年に比べ長引く見込み。</p>				
枝 も の	実績	2020年	1,212	55	
		2021年	1,165	61	
		2022年	1,248	68	
		2023年	1,216	67	
		2024年	1,358	56	
	5カ年平均		1,240	61	
	2025年見通し		1,300	56	
概要	<p>高温、干ばつの影響を受け、生育不良でフジバカマ、ススキ他など遅れが見られる。ソリダコ(長野産)は短い物が多く、フウセントウワタも遅れている。岐阜産の山取りの枝物は月頭から出荷が始まる。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ	実績	2020年	23,582	755	
		2021年	21,998	1,084	
		2022年	25,779	958	
		2023年	22,482	737	
		2024年	20,390	898	
	5カ年平均		22,846	886	
	2025年見通し		20,000	880	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。前年に引き続き、海外からの輸入原木が減少している。特に、大鉢サイズの生産は減少する見込み、出荷のメインは中鉢サイズがメインになる。また最近では、種苗会社よりコンシネの苗が導入されている為、コンシネは4号位のサイズでの出荷が増える可能性がある。</p> <p>前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（50.3%）、2位三重（14.9%）、3位鹿児島（8.8%）。</p>				
オンシジウム	実績	2020年	2,153	652	
		2021年	1,353	697	
		2022年	1,835	600	
		2023年	1,886	562	
		2024年	912	646	
	5カ年平均		1,805	610	
	2025年見通し		850	647	
概要	<p>入荷量は前年よりかなり減少か。特に地元愛知産の減少が目につく。生産減少の影響で大輪系を中心に比較的安定した取引が予想される。</p> <p>前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（87.7%）、2位高知（5.3%）、3位静岡（3.0%）となっている。</p>				
アンズリウム	実績	2020年	5,583	874	
		2021年	8,428	874	
		2022年	9,031	828	
		2023年	6,177	866	
		2024年	6,560	997	
	5カ年平均		7,064	857	
	2025年見通し		6,500	980	
概要	<p>入荷量は前年並かわずか減少か。近年は夏の高温で花の色抜けが目立ってきている為、8月中の出荷を増やし9月出荷が減る見込み。特に8号以上のサイズは単価も厳しくなる予想で出荷量は減少の見込み。出荷メインは6号中心でそれ以下のサイズがメインと思われる。</p> <p>前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位奈良（23.4%）、2位愛知（17.8%）、3位長野（14.3%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シヤコバサボテン	実績	2020年	17,270	426	
		2021年	22,012	451	
		2022年	22,981	445	
		2023年	17,719	458	
		2024年	17,976	455	
	5カ年平均		19,592	447	
	2025年見通し		17,000	453	
概要	<p>入荷量は前年よりやや減少か。高温の影響により8～9月と繋がって小鉢が殆ど出せず、歩留まり非常に悪い。5号以上は出荷続くが、3・5号の鉢数比率が高く、大きくダウンする見込み。数量予測は全く読めず。温度が下がり商品状態が回復傾向になればと期待したい。埼玉のみ出荷有り、下旬頃に他産地が出せるかも。</p> <p>前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(81.4%)、2位埼玉(15.2%)、3位栃木(3.0%)となっている。</p>				
シクラメン	実績	2020年	113,397	142	
		2021年	169,086	157	
		2022年	115,183	164	
		2023年	104,214	159	
		2024年	59,998	185	
	5カ年平均		135,336	153	
	2025年見通し		60,000	178	
概要	<p>入荷量は前年並みか。夏場の猛暑の影響もあり例年より出荷の遅れが懸念される。9月中旬以降、3号ガーデンシクラメンを中心に出荷が始まり、4号鉢以上は10月以降となる見込み。残暑や台風等の天候にも左右されるが、相場が安定するのは9月下旬となる見込み。</p> <p>前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位長野(30.1%)、2位愛知(26.8%)、3位北海道(9.4%)となっている。</p>				
カランコエ	実績	2020年	32,171	230	
		2021年	34,980	249	
		2022年	33,503	242	
		2023年	26,957	259	
		2024年	30,036	274	
	5カ年平均		31,529	250	
	2025年見通し		28,000	240	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。山上げされた商品は8月末～9月頭に入荷始まり順調の見込み。それ以外では高温の影響もあり、花が遅れ入荷のペースが鈍化するサイズもありそう。</p> <p>前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(47.1%)、2位岐阜(35.3%)、3位愛知(11.3%)となっている。</p>				



## いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.627  
2025年9月発行  
農業水産局農政部食育消費流通課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6434